

足羽山公園(福井市)

右手前方の足羽山には継体天皇を祀る足羽神社や継体天皇像のほかに、前方後円墳1基・円墳32基などの多くの古墳が点在していて、足羽山に隣接した兔越山、八幡山を含めた足羽三山周辺を足羽山古墳群と呼び、継体天皇と関わりを持ったであろう古代の豪族足羽氏一族の墓とも云われている

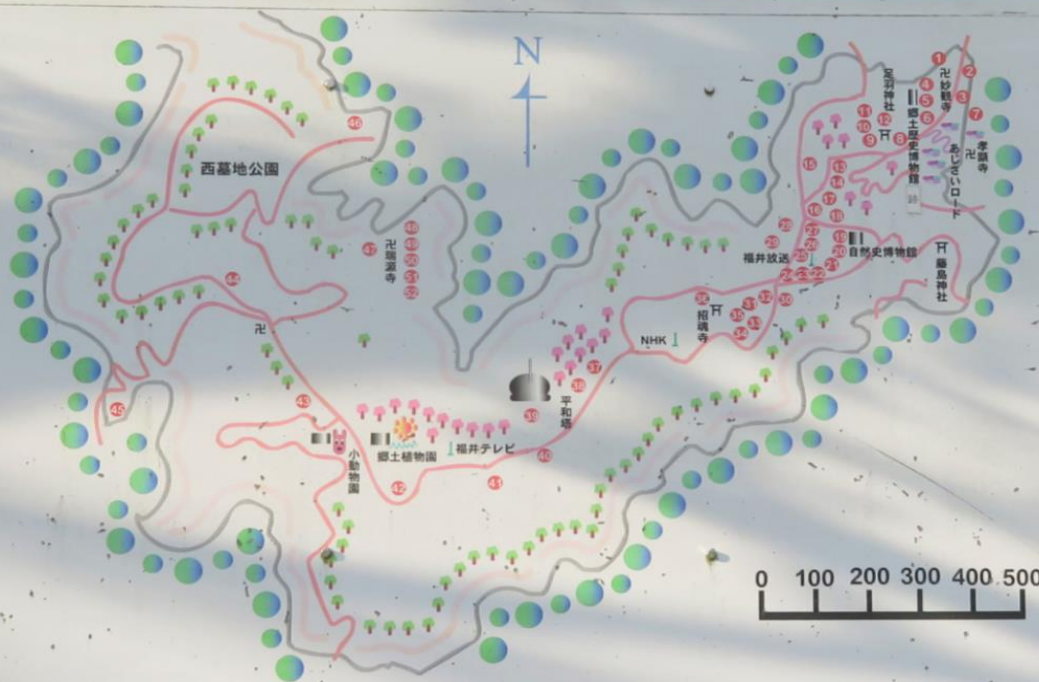


福井市立郷土歴史博物館の展示より

沢山の史跡や墓碑がある

足羽山の主な史跡および墓碑分布図

- 1 橋健女墓
- 2 橋曙寛黄金舎跡
- 3 細井順子碑
- 4 橋曙寛歌碑
- 5 岡倉天心像
- 6 松岡屋吉兵衛石像
- 7 乾出雲墓
- 8 橋元近塚
- 9 継体天皇御世系碑
- 10 九頭竜川修治碑
- 11 六地藏宝塔並びに円墳
- 12 天壤無窮碑
- 13 発摘如神碑
- 14 軍馬の碑
- 15 松嶋清八像
- 16 龍ヶ岡古墳跡
- 17 山本条太郎像
- 18 久津見晴嵐像
- 19 笠原白翁碑
- 20 天魔ヶ池
- 21 継体天皇像並びに山頂古墳跡
- 22 富岡仲次郎像
- 23 高島鷹洲寿碑
- 24 内藤喜右衛門献金碑
- 25 大久保盤山碑
- 26 伴閑山碑



- 27 吉田東篁碑
- 28 宝加塚
- 29 荒川汶水碑
- 30 杉田定一記念碑
- 31 高村親像
- 32 足羽敬明墓
- 33 半井南陽墓
- 34 矢島立軒墓
- 35 西南の役殉難碑
- 36 大正天皇御手植の松
- 37 足羽山古墳群表示石柱
- 38 藤野巖九郎碑
- 39 稻荷山古墳跡
- 40 三十三間堂藩射撃場跡
- 41 古墳群
- 42 大塚山古墳
- 43 柄鏡塚古墳
- 44 寶石山古墳
- 45 饅頭山古墳
- 46 小山谷古墳跡
- 47 松平吉品御霊屋
- 48 田中適所墓
- 49 富田鷗波墓
- 50 山田介堂塚
- 51 三宅丞四郎機業功績碑
- 52 河津直入墓

正面が足羽山山頂に所在する山頂古墳/福井県内最大級の円墳/4世紀の築造/古墳上に「継体天皇像」が立っていると云う



明治16年に像を建設する際に竪穴式石室と石棺が発見された/表面に「直弧文」の線刻が施された4世紀中頃の装飾石棺と云う/石材は足羽山西側山麓域で産出する「笏谷石」で、舟形をしていると云う

山頂古墳



公園造成時の山頂古墳周辺



石室（推定復元模型・断面）と石棺

足羽川と福井平野をのぞむ絶好の場所にあるこの丘は、今から千六百年あまり前につくられた古墳で、「山頂古墳」と呼ばれています。明治時代に足羽山公園がつくられたとき削られてしまい、元の形や大きさはよく分かりませんが、現在でも直径約60m、高さ約7mの大きさを残しており、そのほとんどが人工的に盛り土をしてつくられていることが分かっています。

この古墳の調査では、笏谷石をくり抜き、直線と曲線を組み合わせた「直弧文」という古墳時代特有の文様を刻んだ石棺や、それをおさめるための石積みの部屋（石室）、また、石棺のまわりから玉類、丘の上からは古墳のまわりを飾った埴輪が見つかるほか、周辺から「三角縁神獣鏡」という青銅の鏡の破片が見つかります。いずれも他にあまり例のないもので、古墳の大きさとおわせて、この古墳に葬られた人の地位の高さをうかがわせます。

福井市立郷土歴史博物館では、見つかった石棺を石室の推定復元模型とともに展示しており、古墳に埋葬された当時の様子が観察できます。

再現！ 古墳の内部

足羽山山頂古墳の石室

下の石室は足羽山山頂古墳を再現したものです。

明治16年、足羽山の山頂から偶然、笏谷石製の石棺が発見されました。残念ながら、石棺は打ち割られ、中身が持ち去られた状態でした。その後、昭和26年の調査で、石棺が納められていた^{たて 墓室 石室} 堅穴式石室の底部が未破壊のまま見つかりました。その時の調査結果をもとに、^{推定 復元} 推定復元した盗掘前

の石室の様子です。笏谷石を積み上げて壁をつくり、^{隙間} 隙間を粘土で埋めて密封していたようです。福井平野周辺でこのような堅穴式石室を持つ古墳は、現在のところこの足羽山山頂古墳だけです。



発見された山頂古墳石棺と石室（昭和26年）

福井市立郷土歴史博物館の展示より

「笏谷石」石棺のつながりがあった！



福井市立郷土歴史博物館の展示より

こちらから墳頂に登ってみよう/説明板がある



継体天皇像と山頂古墳

継体天皇の石像は、明治十七年（一八八四）、内山基四郎を中心とした石工たちが、多くの伝説に語られる天皇の業績を顕彰するために立てた像である。笏谷石製で高さは四mを越える立派な石像で、足羽山公園三段広場のシンボルとして広く市民から親しまれてきた。昭和二十三年（一九四八）の福井大震災で倒壊したが、同二十七年に再建された。

継体天皇は、六世紀前半に在位し、名は男大迹という。日本書紀によると応神天皇五世の孫として天皇に擁立された。父は、近江（滋賀県）の豪族彦主人王、母は越前（福井県）の豪族の娘振姫とされ、父の死後は越前で育ったといわれる。福井には、継体天皇による九頭竜川の治水、笏谷石の採掘等の伝説が数多く残されている。

この石像の立つ三段広場と呼ばれる小丘は、実は直径六十m、高さ十mを測る四世紀に造られた古墳である。公園を造るときにその形を大きく削られてしまい、本来の古墳としての形を留めていないが、円墳としては県内最大級で山頂古墳と呼ばれる。

山頂古墳は、図形の刻まれた石棺、三角縁神獣鏡が二面出土していること、また、近年の発掘調査で、埴輪が置かれていたことが明らかになり、その重要性は高く評価されている。

階段の上部に何やら立っている



これが継体天皇像/足羽山より三国(日本海)を望み、現代でも福井の平和と発展を見守っている石像は、福井特産「越前青石」(笏谷石)で出来ていると云う



いやー、凄い！



背面から見たところ



継体天皇の石像についての由来が記された石碑



こちらは明治に建てられた遺跡記念碑



墳頂からは福井平野の先に三国港も見える

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



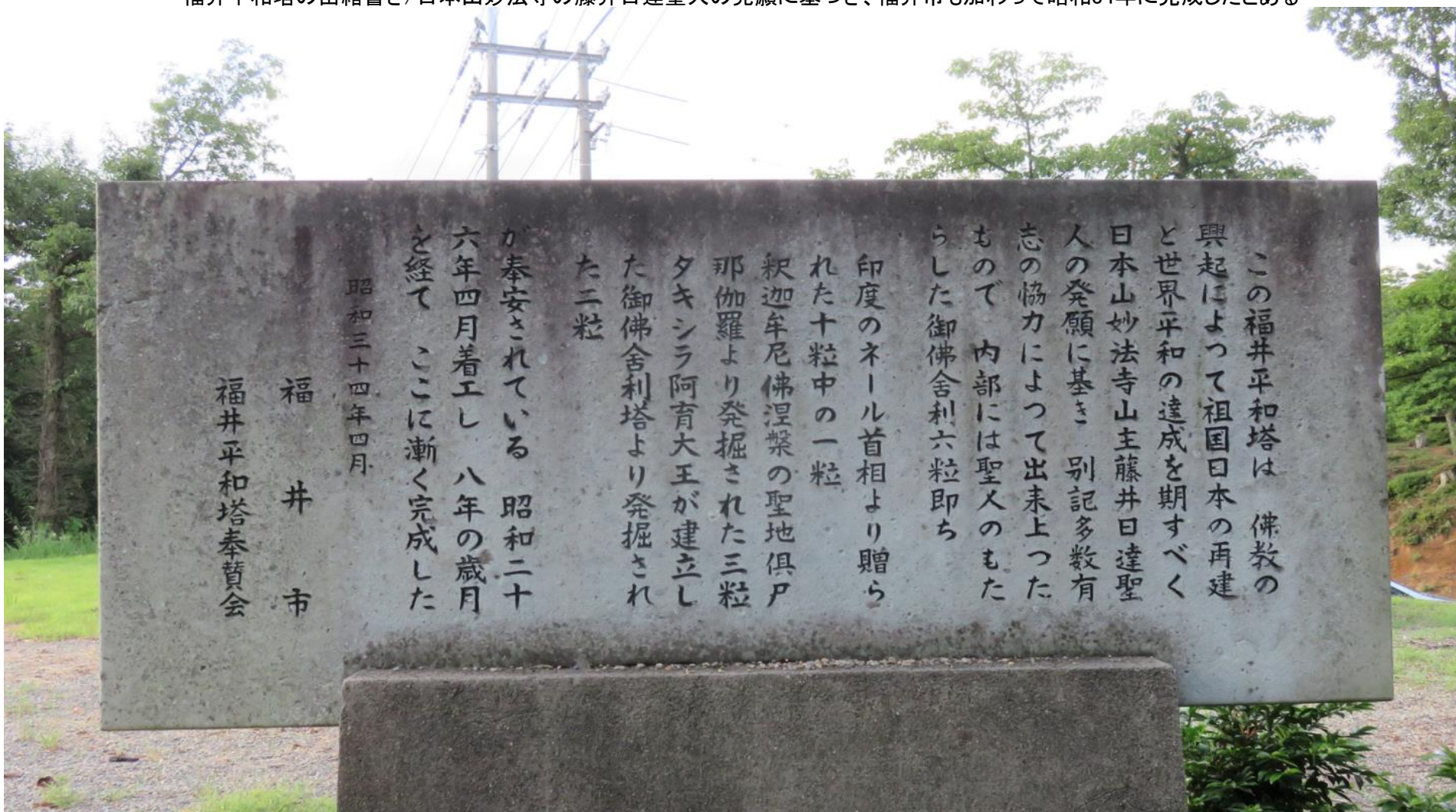
これが稲荷山古墳を削平して建てられた福井平和塔



仏贖



福井平和塔の由緒書き/日本山妙法寺の藤井日達聖人の発願に基づき、福井市も加わって昭和34年に完成したとある



その傍らには「稲荷山古墳跡」と記された表示板があった/「昭和26年発掘され現在は、その跡に仏舎利塔が建設されている/4世紀末の古墳と考えられている」と記されている



さて、こちらは足羽神社



足羽神社由諸

御創立 福井市足羽山鎮座、式内・足羽神社は、人皇二十六代繼体天皇と大宮地之靈又は坐摩神(生井神、福井神、綱長井神、阿須波神、波比岐神)五座を祭祀する神社です。天皇御自創の特徴と御創立以来実に千五百有余年という越前最古の歴史を有する神社です。

繼体天皇と社歴 繼体天皇は、応神天皇六世の皇孫で、御名を男大迹王といわれ御母の里高向(現・丸岡町南部)でお育ちになり、大變徳の高い御方に成長されました。その頃の越前の国は、沼地で人の住むにも限られた土地しかなく、男大迹王は大變心を痛められ、足羽山に土地を卜して御社殿を建て、大宮地之靈を祀って、神前に誓い、地の理を調べて現在の九頭龍・足羽・日野の三大川を作り、三国に水門を開き、諸水を海に流されて越前平野が出来ました。これにより農業が盛んになったばかりでなく、川を利用して舟で荷を運べるようになりました。その他、道を作り人々の住居を定め、耕種、養蚕、採石、製紙、その他諸産業興隆の道を教えられ、昔より越前開闢の御祖神と称え崇め尊ばれてきました。

時恰も、二十五代武烈天皇が崩御され、皇嗣ぎが居られなかったため、諸大臣が相談し幾度となく男大迹王を天皇として御迎えに参り、遂に二十六代天皇の御位に即されました。

此の時天皇は、越前の国を離れるに当たり、この地を慕い、また後に残す人々のことを心配されるあまりに、「未永く此の国の守神に成ろう」と、自ら御生靈を此の宮に鎮め、御子馬来田皇女を斎主とされ、都に立たれました。皇女は天皇の御霊と大宮地之靈を守護り、阿須波の神名により足羽宮と称え奉ることになさいました。福井、足羽郡、足羽川等の名も皆、御神名に起縁している訳です。

御神徳 多くの人が何事によらず御報告申し上げ、お願いやお祈りして御守り頂きますが、昔より左記に関する祈願には特に尊い御恵を頂けるとされています。

繼体天皇

越前開闢之祖神、産業開発興隆、商売繁盛、工事安全、子授け、安産、子孫繁栄

大宮地之靈

朝廷宮中の守護神

生井神、福井神、綱長井神

井戸の神、水の神

阿須波神

足場の神、旅行・交通守神、

工事安全守神

波比岐神

門の神、人の出入りを

守護、災難除守神

脇殿の神

天満宮、愛宕神(火の神)、えびす神、大黒神、薬師神

神宝神社

足羽神社に合祀。明治維新の元勳由利公正子爵が拝領した明治天皇が御即位式に御着用の刀、束帯と御鏡を祀り、明治天皇の御聖徳を称え奉る。

人麻呂神社

足羽神社に合祀。万葉歌人柿本人麻呂命を祀り、文字の上達、文学、学問の守神



福井市都市景観
重要建築物

福井市の景観形成上
重要な価値があると
認められましたので、
重要建築物等の指定
をいたします。

福井市都市景観
重要建築物等指定第十二号
指定物件「足羽神社」

平成十三年九月三日
福井市

小倉一郎

幸

久右門 明

小ひげ餅三男

境内を見てみよう



これが社殿/継体天皇が主祭神として祀られているらしい



これは継体天皇御世系碑



飛騨高山の国学者田中大秀(本居宣長門人)が、早くから継体天皇の御世系を研究し、これを世人に広めようと計画したもの



弘化4年(1847年)11月の造立



さて、ここを登っていくと六地藏宝塔があるようだ



元禄14年(1701年)6月、常陸国真壁郡小栗庄下館という処の真誉謹入によって造立されたもので、菩提車六地藏とも呼ばれる



これが六地藏宝塔



六角石の上部に六地藏の彫刻があり、中央内部には六角形の木製車輪があって、これを回転させると災難を免れると云う



六地藏をアップで見たところ



傍にはこんな石祠もあった



また、境内の外になるが、こんな石像もあった



足羽山への登山道(愛宕坂)を笏谷石を使用して石段を整備した人物と云う

松岡屋吉兵衛石像

江戸時代の足羽山は山頂の寺社への参詣者で賑わっていましたが、登山路である愛宕坂は、雨が降るとぬかるみ、人々は難渋しました。

城下立夫町(現足羽一丁目)の商人だった松岡屋吉兵衛は、寄付を募り、愛宕坂と百坂を石段とするために尽力しました。

石段には笏谷石が用いられ、文政十一年(一八二八)に完成、吉兵衛の業績を讃えるために、この石像が造られました。銘文によると、加茂村(現加茂河原町)の石工、吉五郎の製作です。

破損が進んでいましたが、愛宕坂の歴史を伝える石像を保護するため、当協会ではこれを修復し、覆屋を設置いたしました。

平成二十年三月

財団法人 歴史のみえるまちづくり協会

参考ホームページ

<http://asuwayama.fukuicity-navi.com/knowledge/kofun>

<http://ktmrj15.webcrow.jp/p18fk/pez18201asuwa.htm>

<http://massneko.hatenablog.com/entry/2018/09/18/000000>

http://8mачan-trip.cocolog-nifty.com/keitai/2007/06/post_fba9.html

<http://kofuntokaare.main.jp/3goufun/page514.html>

<http://obito1.web.fc2.com/fukui.html>

<http://www.asuwaijinia.jp/>

